勞働不安の渦中に投込まれた大阪

6.20 意氣揚つて來た鈴木氏

橋斷的團體交涉權を全國的の輿論にする爲に一先づ歸つた

『いくら國賊だと罵ひされやうが勞働者向上の爲めには働く覺悟です』と語る『先月廿七日から開かれた藤永田の爭議は橫暴な警官の壓迫により以上に燃え擴がつたと言ふ事が出來ませう、私は事件の圓滿解決を望んで西下したのですが大阪を中心とした勞働不安の情勢に壓されて先づ十七日午後二時と集めて來た二千餘圓で非常に力のこもつた運動を續けて來ました、十八日の夜は神戸での第三回勞働者大會となつたのですが之れで感激再燃した爭議の一幕となつたのです松岡、宮川、木村の諸君は留守師團長の格で留まる事になりましたが此の橫斷的團體交涉權を全國的の輿論にしたい爲め私は一先づ歸京する事にしましたが今大阪を中心に してあの一觸即發の勞働爭議は不安と焦躁の裡に一種の大きい階級戰と變らんとしてゐる

大阪の爭議に 6.20 東京も奮起す

好況時代の關西の勞働者達はやる血氣に 本日友愛會の大會議

大阪では五月一日メーデーを切掛けに勃發した大電の罷業事件以來多數の爭議が續々と勃發し、その手段には工場閉鎖軍役者の被壓及び同情罷工等可なり過激なものがある一方工場主側は百名近くも大阪工業會館上に集合して團結的對抗の氣勢を見せつゝあるが、神戸の各勞働團體は既に

暴行職工 6.20 續々檢擧せらる

大阪檢事局活動を開始 被檢擧者は順次に起訴

（大阪廿日電話）藤永田造船所の職工對警官との衝突の際暴行を働いた職工を手當次第に檢擧すべく愈々二十日より之に着手し先づ池田捜査係長は二十日早朝新町署に赴き各刑事に指揮して正午過ぎ木下某外十一名を羅致し其外檢事は四方に活動を開始し檢事局では宮崎檢事以下數名の檢事同地に出張檢事取調を開始し同時に王子町の鈴木造船課長宅に差し當り實地檢分を 行ひ現場檢證を擧行して居るが之れ等の取調を終了すると順次起訴する方針なりと

其一隊 遂に解放

西長堀より西に向つて行く百餘名の一隊は三軒家旭倶樂部に集合一休憩して居るとの事に大木外十數名を檢擧し職工組合第二支部、造船組合第十六支部の幹部百餘名、第十六支部の急行したるも既に解散の後で仕方なく根棒、金棒等の兇器二十餘點を押收したるが職工側は既くと見て蜘蛛の子を散らす如く四散し其一隊は西に向つて逃げたるより警官側は引續き犯人の檢擧に努めつゝあるが一方前野氏邸の被害は表窓硝子數枚を破壞されしのみにて幸に大したる被害はなし

罷業職工 前野邸を襲撃

警官隊と大衝突 6.20 西長堀より藤永田橋畔に入り亂れて爭鬪

多數負傷 暴行者續々檢擧

尼ケ崎神崎間仲綱工組合第十四支部は十八日大阪造船工組合に對し自來十錢增給の職工約五百名は阪神野田停留所にて受取り勞働歌を高唱し示威運動をなしつゝ船津橋に出で同所に於て約一千の集團を合して築港に向ひたり

内約五百名の一團は電車道を西へ進み四ツ橋に出で右折して前野氏の前に於て

勞働歌 を高唱して引揚げ再び四ツ橋に引返し新町通りを西へ宇和島傳通りを本隊と合し其儘に寄邊の來るを待ち居たるが之より先新町署にては急を聞いて直に警察本部に報告する一方金市署に應援を求め正服私服の警官隊は時を移さず現場に駈付け警戒に就くと同時に八時十分大木監察官が第七百號自動車にて同所に駈付けるや格さず再び前野氏邸を襲ひなる職工團はそれを見て自動車の行手を遮り會旗の旗竿を以て運轉手市原和三郎(二)の

橫腹を 突きこれを合圖に鬨の聲を擧げつゝ五隊を前野氏邸と投付けるより警官隊は直に犯人の檢擧に着手し茲に端なくも警官隊と職工側と大衝突を